

国際交流基金助成事業報告書

薬学部 2年次生 K.N

1) 渡航前に考えていた自分の目標

渡航前、私は大きく3つの目標を設定していた。1つ目はホームステイを通じて英語でのコミュニケーション能力を向上させること。2つ目は海外の医療制度や医療現場の雰囲気を実際に見て、日本との違いを学ぶこと。3つ目は異文化の中で生活することで、自分自身の価値観を広げることであった。これらの目標を設定した理由は、将来、医療従事者として働く上で、国際的な視野を持つことが重要だと考えたためである。また、日本においても外国人患者は年々増加しており、医療従事者として英語での基本的なコミュニケーション能力は不可欠であると考えたためである。

2) その目標は渡航後達成できたか

目標は一部は達成することができたが、それと同時に多くの課題も見つかった。まず語学面に関しては、ホストファミリーが簡単な単語でゆっくりと話してくれたり、ジェスチャーを使ったりしてくれたおかげで何とか理解できたものの、ホストファミリー同士の会話では話すのが速くて理解が追いつかない場面が多かった。それでも積極的に話そうとする姿勢によって少しはコミュニケーション能力が向上したと思う。

医療制度については、日本との違いを具体的に知ることができた。例えば、日本では公立病院と民間病院の間で治療費に大きな差はなく、ほとんど同じ医療サービスを受けることができる。一方、オーストラリアでは医療制度の違いにより、公立病院と民間病院で特徴が大きく異なっている点が興味深かった。命に関わる緊急性の高い治療は別として、緊急性が低い場合、公立病院では治療費が比較的安い代わりに、治療開始までに長い待機時間が発生することがある。それに対して民間病院では、治療費は高額になる傾向があるが、比較的早く治療を受けることが可能である。このように費用と待機時間のバランスを患者さん自身が選択する仕組みは、日本の医療制度とは大きく異なっており、非常に興味深いと感じた。他にも薬剤師に処方権があったり、専門のトレーニングを受けた薬剤師はワクチンを打つことができたりと日本と異なっている部分がたくさんあった。



ホームステイ先で特に印象的だったのは、生活リズムの違いである。ホストファミリーは夜寝る時間が早く、その分朝も早く起きるという規則正しい生活を送っていた。日本では比較的遅い時間まで起きていることも多かったため、最初はこの生活リズムに戸惑ったが、朝早く起きて活動することも魅力的だと感じた。

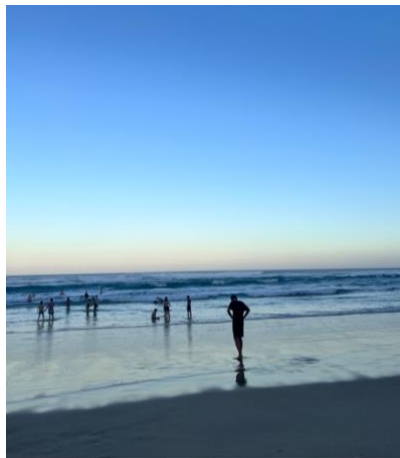
3) これからの自分

今回のオーストラリア語学研修は、私にとって初めての海外経験であった。そのため、出発前は言語や生活の違いに対して大きな不安を感じていた。しかし、実際に現地で生活してみると日本とは違う点が多くあり、魅力的に感じることも多かった。また、現地での生活の中で、人の温かさを強く感じる場面が多くあった。スーパーで日本のシステムとの違いに戸惑っていた際、店員の方が気づいてくれて丁寧に教えてくれたことがあった。また、水道の使い方が分からず困っていたときには、近くにいた方が親切に教えてくれた。このような経験を通して、言語や文化が異なっても、人と人との思いやりは共通していることを実感した。同時に、自分も困っている人を見かけた際には、積極的に声をかけ、助けることができる人でありたいと強く感じた。語学力については外国人の患者さんにも対応できるよう、医療英語を中心とした語学学習を継続していきたい。単に単語や文法を覚えるだけでなく、実際の医療現場を想定した会話ができるよう、実践的な力を身につけることが必要であると感じた。



4) ホームステイ先での生活

ホームステイでは、日常生活だけでなく放課後や休日の過ごし方も含めて多くの貴重な経験をすることができた。放課後は海へ出かけたり、ショッピングに行ったりした。現地の店にはダイソーがあり親しみを感じたが日本と比べて価格が約3倍くらい高く、物価の違いを実感した。また、飲み物の価格も全体的に高く、生活コストの違いに驚いた。休日にはテーマパークに行ったり、野生のカンガルーを見に行ったり、英単語のクロスワードのようなスクラブルというゲームをしたりと楽しい時間を過ごすことができた。



また、ホームステイを通して、食文化の違いも強く実感した。まず朝食は、日本のように用意されたものを食べるのではなく、自分で準備するスタイルであった。オーストラリアでは有名なベジマイトにも挑戦してみたが、独特の味で私の口にはあまり合わなかった。昼食は、サンドイッチやフルーツ、スナックなど簡単なものを中心に、日本のお弁当とは、また違って美味しかった。夕食はパスタやチキン、サラダなどが中心でとても美味しく感じた。



また、外食の機会もあり、ピザ屋や回転寿司に連れて行ってもらった。ピザ屋の店内は日本ととても似ていたがメニューが少し異なっていた。パイナップルが乗ったピザが主流らしく私も挑戦してみたがとても美味しかった。回転寿司では、日本と同じような寿司だけでなく、チョコパイのようなデザートがレーンに流れており、日本との違いが感じられて新鮮だった。



5) 最後に

今回のオーストラリア語学研修を通じて、現地の文化や生活環境を体験しながら英語を実践的に学ぶことができた。授業だけでなく、ホームステイを通して、異文化理解やコミュニケーション能力も高めることができたと思う。さらに自分自身の学習の課題や目標を明確に意識する機会となり、今後の学習意欲にもつながった。今回の経験で学んだ英語力や国際感覚を今後の日常生活や将来の学びに活かしていきたい。